

令和5年度 静岡県「体験の風をおこそう」運動推進事業

オープンハウス 2023



令和5年10月22日（日） 日帰り

○目的

「SDGs」をテーマに、国立中央青少年交流の家の活動プログラムをはじめとする様々な体験活動の提供を通して、SDGsへの理解を広げる機会とし、併せて体験活動の意義や重要性の普及啓発、及び当交流の家の周知に繋げる。

また、SDGsの推進に取り組む団体の情報発信や団体同士の交流の機会とすることにより、SDGsの普及啓発に貢献し、関係団体とのパートナーシップを一層推進する。

○参加者（対象及び内訳）

対 象：小学生を含む家族、親子など

参加者：974名

○後援 静岡県教育委員会、御殿場市、御殿場市教育委員会

○協賛 玉穂報徳会、中畑愛郷会、印野郷土振興協会

○事業の内容

（1）地域団体による出展ブース

＜出展した団体＞（順不同）

沼津工業高校、田方農業高校卓球部、田方農業高校動物科学部、熱海高校、御殿場特別支援学校、御殿場市立図書館、御殿場市文化協会茶道和光会、御殿場市文化協会華道連盟、御殿場ロータリークラブ、御殿場市ボランティア連絡協議会、御殿場市子育て支援団体「はぐっと」、御殿場アーチェリークラブ、御殿場おもちゃ病院、陸上自衛隊滝ヶ原駐屯地、ガールスカウト静岡県第33団、Joint Pi's（ジョイントピス）、駿東ペタンククラブ、NPO法人土に還る木森づくりの会、NPO法人みらい建設部、アークラ大サーカス、ブーブカフェ、（株）ノースゲイト、常葉大学自然体験活動クラブ「ビオ・エデュ」、モタンカ、ブックシェアリングごてんば



各団体の普段の取り組みを発表する機会としても活用していただき、子供たちにはとても良い体験の機会となった。高校の地域探究活動（開発した商品の販売）や、部活の実践機会にもなっている。地域の団体とも、「子どもの笑顔のために」との想いでつながる良い連携の機会となっている。



（2）生山ヒジキさんのなわとびパフォーマンス

「体験の風をおこそう」運動応援団の、プロなわとびプレイヤー生山ヒジキさんによるなわとびパフォーマンスを開催した。

2回のパフォーマンスは、会場を埋めつくす人気ぶりであった。生山さんに会いたくてなわとびを持参し、最後の見送りまで待っていた子供もおり、プロなわとびプレイヤーの演技の迫力に見ている人も引き込まれていた。



(3) 自然体験アプリ「色おにであそぼう」

カシオ計算機（株）との連携で、交流の家内の自然を活かして、「色おにであそぼう」アプリを開発し、実施した。自然体験をテーマにしたデジタルコンテンツとして今後、活動プログラム化できるよう取り組みを進めていきたい。

保護者のスマートフォンにアプリをダウンロードして使う方法で遊んでいただいた。スタッフに何度も見せに来る子供もおり、自然体験活動への導入を進めるツールとして活用できると考えている。



(4) フードドライブ活動の実施・普及啓発

御殿場市社会福祉協議会と連携し、フードドライブ（家庭で余っている食品を学校や職場などに持ち寄り、食べ物を必要とする団体や施設に寄付をすること）活動の実施、啓発活動を行った。



(5) その他

差別や偏見を解消し思いやりの心の輪を広げるためのシトラスリボンプロジェクトの普及啓発、子どもゆめ基金についての周知を図る展示を実施した。

SDGs の考え方をもとにフードドライブ活動、シトラスリボン運動などに取り組むことで、みんなで支えあう社会づくりについて考える機会となった。

また、子どもゆめ基金の広報活動も行い、様々な活動の助けになるよう活用への周知を図った。



○シトラスリボンプロジェクトへ参加しています

差別や偏見を解消し、思いやりの心の輪を広げるために、シトラスリボンプロジェクトへ参加しています。

○子どもゆめ基金

草の根レベルで青少年の体験活動を支援する「子どもゆめ基金」についてご存じですか？とりくみを紹介します。



《参加者の感想（アンケートより）》

- ・どれもが魅力的な活動で、交流の家での秋を楽しみました。どこのブースも笑顔で子供たちを迎えてくださってありがたいなと思いました。
- ・なかなか入れない場所だと思っていたのですが、自然あり、楽しいプログラムありで子供も大人も楽しめるよいイベントでした。
- ・アプリでの色探しやなわとびパフォーマンスが楽しかったです。高校生たちが子供たちにやさしく接してくれました。

《成果と課題》

- 多くの親子が参加し、体験活動を楽しんでいただけた秋の一日となった。
- 地域の様々な団体が「子どもたちの笑顔のために」をテーマに参画した。それぞれの取り組みの発表の場としても活用してもらい、お互いにとってメリットのある良い関係を築いている。
- コロナ禍が落ち着き、今秋の御殿場周辺ではほぼ毎週末イベントが実施されており、参加者を奪い合っている状況にある。日程の再調整、他団体との連携など実施方法については再考の必要がある。

